



環境消毒について

R6.10.22大分県南部保健所

本スライドでは、すべて **いらすとや** さんのイラストを使用しています。

説明の前に・・・

【空間(空気)の消毒はやめてください！】



基本的に、空間(空気)の消毒は、あまり意味・効果がありません。
その上・・・



眼に入る(失明)



皮膚炎・手荒れ



呼吸器疾患



火災



お金かかる

あまり効果がない + デメリットが多い = やめるべき！

どうしてもしたいなら「**換気**」してください。

【空間(空気)の消毒はやめてください！】

新型コロナウイルスについて

WHO: 「室内空間で日常的に物品等の表面に対する**消毒剤の(空間)**
世界保健機構 **噴霧や燻蒸をすることは推奨されない**」

「消毒剤を(トンネル内、小部屋、個室などで) **人体に対して空間噴霧する**
ことは、いかなる状況であっても推奨されない」

CDC: 「**消毒剤の(空間)噴霧は、空気や環境表面の除染方法としては**
アメリカ疾病 対策センター **不十分であり、日常的な患者ケア区域における一般的な感染**
管理として推奨しない」

厚労省: 「消毒剤の有効かつ安全な空間噴霧方法について、
科学的に確認が行われた例はありません。」

「**人がいる空間への次亜塩素酸ナトリウム水溶液の噴霧については、**眼や皮膚
に付着したり吸入したりすると危険であり、噴霧した空間を浮遊する全てのウイル
スの感染力を滅失させる保証もないことから、**絶対に行わないでください。**」

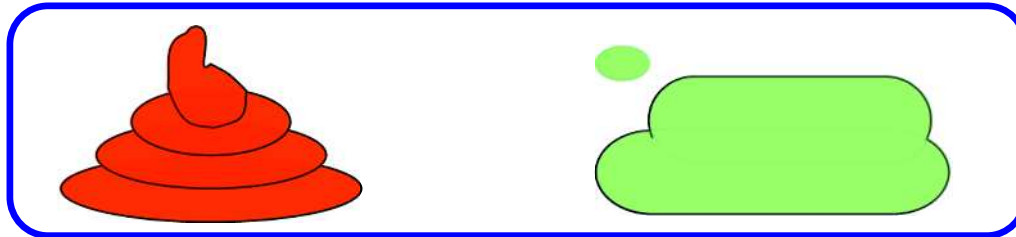
「空間の消毒」は、今すぐ、やめてください！

環境を消毒をする際の大前提

各種消毒は、あくまで

「見える汚れを除去した上で消毒する」が大前提。

- ~~・トイレで便が付着したまま消毒する~~
- ~~・嘔吐物が残っている状態で消毒する~~
- ~~・痰が付着した状態で消毒する~~



除去後に
消毒する！



まず「汚れを物理的に取り除く」ことが重要。

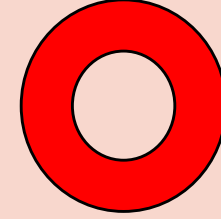
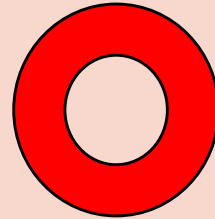
残存した菌・ウイルスを殺菌・消毒する。

ノロウイルス

新型コロナ
インフルエンザ
腸管出血性大腸菌
薬剤耐性菌(VRE, CRE)

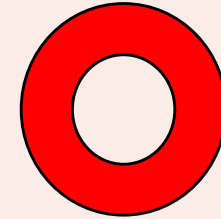
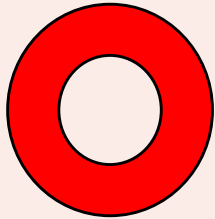
熱水

(温度に注意)



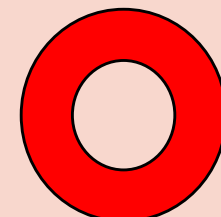
次亜塩素酸ナトリウム

ハイター、ブリーチなど
(濃度に注意)



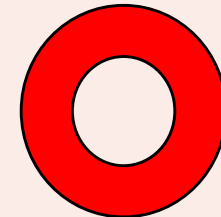
エタノール(アルコール)

(濃度に注意)



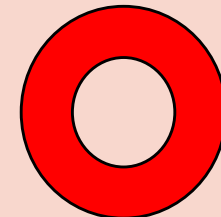
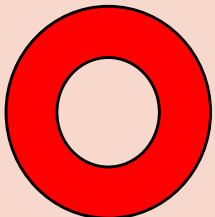
第4級アンモニウム塩

塩化ベンザルコニウム(オスバン)等
(濃度に注意)



(参考)

ハンドソープで手洗い
(物理的に除去)



主な消毒方法は、熱と薬剤

1. 熱による消毒

- 80℃～（病原体によって温度は異なる）の熱水
ノロウイルスは85℃以上で1分以上

※洗えるものに利用可能

（給湯器のお湯だと温度が低いため、沸騰させたお湯で）

2. 薬剤による消毒

- 消毒用エタノール
- 次亜塩素酸ナトリウム 等

※ 薬剤は使用方法（濃度・用途など）を守る

※ 先に汚れを落としてから、殺菌する

①消毒用エタノール

- ・70%以上95%以下のエタノール
- ・市販されているアルコール製品の中には、70%未満の物もあるので注意。
(その場合、「消毒用」とは記載されていないので、使用前に確認してください。)



注意

「70%以上」を確認してください！
(これより濃度が薄いと、効果も薄いです。)

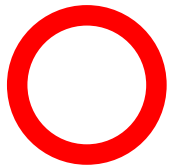
①消毒用エタノール

取り扱い時の注意点

- ノロウイルスには、**効果がない！**
- **火気厳禁**
- **汚れが残っていると効果が弱い**
- **水分が残っていると効果がない**



ぬれた手には
消毒効果がない。



②次亜塩素酸ナトリウム

- ・塩素系漂白剤
- ・商品名は「ハイター」、「ブリーチ」等
- ・概ね、原液は5%(50,000ppm)程度
- ・消毒対象・用途により、薄めて使用する



	ノロウイルス	新型コロナ インフルエンザ 腸管出血性大腸菌 薬剤耐性菌(VRE, CRE)
嘔吐物・便 などの 付着場所	<u>0.2%以上</u> (<u>2,000ppm</u> 以上)	0.02%以上 (200ppm以上)
ドアノブ、手すり	0.02%以上 (200ppm以上)	0.02%以上 (200ppm以上)

ノロウイルスの場合

消毒液の作成方法（原液濃度5%使用）

対象物・濃度 作りたい量	嘔吐物・下痢便等	ドアノブ・手すり等
	0.2% (2000ppm)	0.02% (200ppm)
500ml (0.5リットル)	20ml + 水480ml	2ml + 水498ml
1000ml (1リットル)	40ml + 水960ml	4ml + 水996ml
2000ml	80ml + 水1920ml	8ml + 水1992ml
3000ml	120ml + 水2880ml	12ml + 水2988ml
4000ml	160ml + 水3840ml	16ml + 水3984ml
5000ml (5リットル)	200ml + 4800ml	20ml + 水4980ml

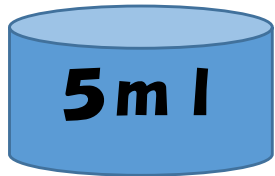
次亜塩素酸ナトリウムの希釈方法（計算式）

$$\frac{\text{作りたい量 (ml)} \times \text{作りたい次亜塩素酸ナトリウム液の濃度 (\%/100)}}{\text{原液の次亜塩素酸ナトリウム液の濃度 (\%/100)}}$$

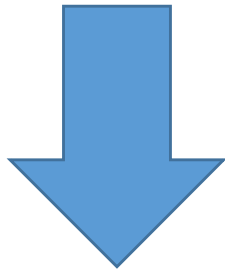
＝ 水に加える
原液の量 (ml)

0.2%の濃度の消毒液の作り方(2L) 例

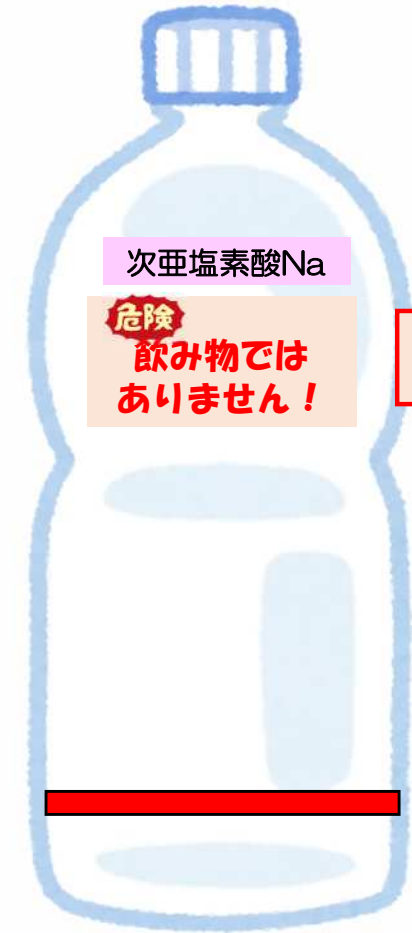
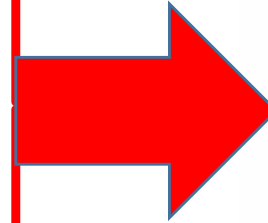
5%次亜塩素酸ナトリウム液80mL



ペットボトルのふた
約**16**杯分



2Lペットボトルに上記の量を入れた後、水を入れて希釈する



(例) 2Lの調製であれば、あらかじめ80mlの位置にラインを入れておくと、作る時に簡単です

②次亜塩素酸ナトリウム

取り扱い時の注意点

○換気をする

○手袋、マスクを着用する



○次亜塩素酸ナトリウムで清拭後、水拭きをして
乾燥させる

(水拭きをしないと、変色や金属のさびの原因になる)

必ず換気！



②次亜塩素酸ナトリウム

取り扱い時の注意点

○口の近くで噴霧しない（吸引すると有害）



○光や高温に不安定なので、薄めた液の作り置きは避ける
（冷暗所保存では2週間程度使用可能）



←アルミホイル
などで覆う

○「混ぜるな危険！」他の薬剤と併用しないこと！
酸性のものと混ぜると塩素ガスが発生して危険！



**適切な消毒で
感染症対策を実施してください**

